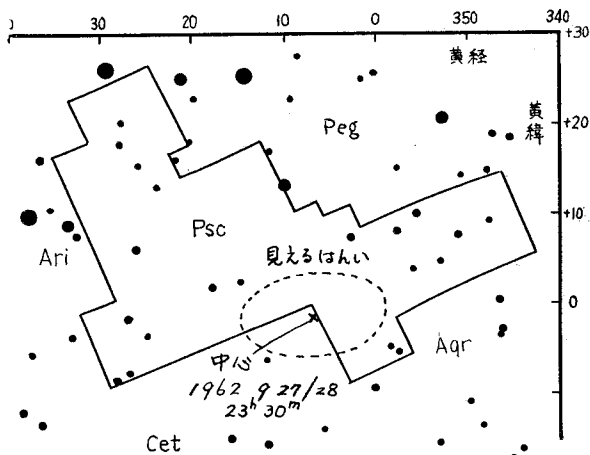


☆ 10月の天文暦 ☆

日時	主な天文現象
3 14	望
3 21	月 木星の 4° 南をとおる
6 5	水星 最大離隔 太陽の西 18°
6 13	金星 スピカの 3° 北をとおる
8 18	白露 (太陽黄経 165°)
8 20	木星 衝
10 4	下弦
16 14	月 水星の 3° 北をとおる
17 22	朔
18 23	月 金星の 4° 北をとおる
18~23	オリオン座流星群
22 5	土星 留
24 3	秋分 (太陽黄経 180°)
26 2	上弦



対日照の観測

対日照は、肉眼では秋の夜半に1年中でもっともよく見えるが、これを見たという人は案外少ない。対日照の光は、銀河のもっとも淡い部分(れとえば、ぎょしゃ座)よりも暗いのがふつうで、都会地で見えるみこみがないからだろう。夜の雲が、地上の光を反射するために白く見えるような場所では、対日照は見えない。晴れた夜空は、星や銀河の光のほか、それらとおなじくらい夜光の光があって、一面にうす明るいものである。対日照を見るには、そうした夜空をバックに、夜の雲が黒く見えるような暗い場所をえらぶ。ふつう夜半がもっとも見やすいが、22時~2時のあいだに見られる。形は、直径10°~20°の、左右方向が上下方向よりやや長い楕円形である。その中心が、ほぼ黄道上で太陽と反対の位置にある。したがって夜半前は子午線の東寄りに、夜半後は西寄りになるが、予想位置から目をはずして、近くを見ま

わすようにすると、よくわかる。予想位置が銀河のなかにきたり、多少とももやのあるときなどは、まず見えない。対日照が秋(と春)に見やすいのも、じっさいに明るくなるというより、位置や天候がつごうよいからだろう。そのほか、夜光の明るいときは、対日照の光がそのなかに埋もれて、見えにくくなる。夜光の活動は太陽活動と関係がある。黒点極小期にあたる今後2、3年間は、対日照を見る好機だといえる。

対日照を見たら、大体の形、中心位置を星図に記入する。中心位置は、太陽の反対点よりいつも西側にずれているという説があり、また黄道の南北に1年周期のずれが見られるという報告がある。したがってこの観測は重要だ。明るさは目ではほとんど測れないが、ペガサス座の4辺形のなかの明るさとくらべるのが適当だろう。なお、記録用の照明は暗い赤ランプでも観測をさまたげるので注意がいる。

東京における日出入および南中 (中央標準時)

IX月	夜明		日出		方位		南中		高度		日暮	
	時	分	時	分	時	分	時	分	時	分	時	分
1	5	2	5	35	- 2°7'	11 31	51°7'	17	27	18	0	
11	5	10	5	43	- 7.4	11 28	47.9	17	13	17	45	
21	5	19	5	52	-12.0	11 26	44.1	17	0	17	33	
31	5	28	6	1	-16.2	11 25	40.7	17	48	17	21	

各地の日出入補正值 (東京の値に加える)

(左側は日出、右側は日入に対する値)

分	分	分	分
鹿 児 島	+33	+41	鳥 取 +22 +23
福 岡	+35	+40	大 阪 +16 +18
広 島	+27	+31	名 古 屋 +10 +12
高 知	+23	+27	新 潟 +5 +2
			仙 台 -2 -6
			青 森 +1 -9
			札 幌 0 -13
			根 室 -16 -30

